

2023-24年度R1テーマ  
Create Hope in the World  
世界に希望を生み出そう

R1会長  
ゴードンR.マッキナリー



## TAKEHARA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN 竹原ロータリークラブ週報

会 長	宮本 和彦	会 計	土伏 英晴	管理運営	吉本きよ子
会長エレクト	宇都宮勝博	S A A	三好 静子	会員組織	堀越 賢二
幹 事	宇都宮勝博	副S A A	木村 安伸	奉 仕	久藤 孝仁
副 幹 事	福本 博之	直前会長	板場 英行		

事務局／〒725-0021竹原市竹原町3591  
TEL／0846-22-7570 FAX／0846-22-7651  
E-mail／rc-take@estate.ocn.ne.jp  
http://www.takehara-rc.com  
例会日／毎週木曜日12:30~13:30  
例会場／大広苑 TEL(0846)-22-2970

本日のプログラム 9月14日	次週のプログラム 9月28日
クラブ管理運営委員会担当例会	クラブアッセンブリー

### 【2023年9月7日 第2782回例会記録】

- 点 鐘
- 国歌斉唱
- ロータリーソング：奉仕の理想
- 4つのテスト：吉本きよ子会員
- 会員数：12名
- 出席者：9名
- 欠席者：2名
- メイク：1名 □出席率：83.33%

#### 記念日代表者謝辞



9月 中川康子会員



#### 会長の時間

【会長 宮本 和彦】

廣畑富雄氏著書 ロータリーの心と原点—基本に返ろう—をご紹介します。ロータリーの心とは何でしょうか。ロータリーの心を日本の素晴らしい先輩ロータリアンのガバナー月信から搜してみたいと思います。日本の初代のガバナーは米山梅吉さん、二代目は井坂孝さん、三代目は村田省蔵さんです。日本全体と満州、台湾、朝鮮、大連、それらを全部合わせて一つの地区であったころ（ロータリー第70地区）の話です。三人のガバナーとも財界の重鎮でしたが、同時にロータリーを深く愛し良く理解しておられました。井坂さんは銀行の頭取、海上火災保険会社やガス会社の社長等を歴任され、横浜商工会議所の会頭もされた。井坂さんはその月信でロータリーの本質を適格に述べておられます。なお注意すべきことは、奉仕という言葉を意識的に避け、言語の「サービス」で押し通しておられることです。サービスを奉仕に訳せば意味が大きく変わるためでしょう。サービスはこの小文の最後にランダムハウス大辞典を引いて述べるように、人の為になる行為です。それに対し奉仕は第一の意味は仕えまつことであり（広辞林）、概念が大きく異なります。村田省蔵ガバナーは、ロータリークラブの生命とするところは精神的にはサービスです。そしてクラブの具体的な生命が何かといえば、疑いもなく出席と職業分類です。もしこの二点を大事にしないならロータリークラブは有名無実であり、どんなサービスを説き、友愛を強調しても一つの社交クラブに過ぎず、今日世界的発展は得られなかったでしょう。例会を重視する事と、職業分類を重視し、ロータリアンはその業種の代表であるという考えはまさにロータリーの基本です。

## 誕生月会員卓話



会員 木村 安伸

先月19日猛暑の中で開催された安芸津ふれあい夏祭りに実施した「ポリオ撲滅募金活動」は、中川会員、吉本会員、宇都宮幹事、重友事務局と私の5名が参加しましたが、その模様について一部を紹介しましょう。

募金を開始した早々小学4～5年生位の男の子がポスターをじっと見ているので、尋ねたところこれは寄付金集めですねと言いながら募金箱にコインを入れてくれました。

次に、中学の女子生徒4名にティッシュペーパーを渡すと彼女達は全員で相談しながら募金に応じてくれました。この様に若い人達に素直に気持ち良く募金に協力して貰えて清々しい気分を味わえることが出来るものです。

又、中年の女性に尋ねてみるとポリオも小児麻痺も全く知らないとの返事でしたが、我が国では遥か以前に根絶されていますので、このような話しも止むを得ないと思います。

「ロータリーの友」8月号に野生型ポリオウイルスによる感染症例が、常在国のパキスタン、アフガニスタン非常在国のモザンビーク、マラウイの4か国で2020年が140、2021年が6、2022年が30、2023年が6と記載されています。

私が、平成17年10月当クラブに入会した当時最長老の故上杉会員が熱心にロータリーのポリオ撲滅活動について卓話をされていたことの記憶が未だに残っています。ロータリーはポリオ撲滅を2010年代に完遂させることを目標にしていますが、私はこれからももっともっと撲滅活動の輪を広げる必要があると感じた次第です。

話は変わりますが、一昨日の5日クラレの株主優待券を使って倉敷市の国際ホテルに宿泊し、元会社の同僚2名と私の3名でよもやま話に花を咲かせて旧交を温めて来ました。

私が勤務していた船会社は、昭和23年9月に創業し本年で75周年を迎えますが、創業家の3代目が7月に病没しました。私よりも10才若く未だ70台前半なので非常に悔やまれます。私が入社したのは昭和37年3月で、当時創業者はかくしゃくとして政界、業界に政商と言われる程顔が広く会社を次々に発展させ、外航海運にも進出しました。当時は内航海運業界でベストテンに入っていて船員も約600名の人数が全国から集まっています。その後、船舶は気帆船から鋼船に変わり次第に大型化して行くと共に、日本の産業構造の変革に伴って内航海運業界が次々に集約されて行きました。

私は、昭和50年3月に沖縄のタグボート会社へ出向し、平成17年3月迄30年間勤務して創業者、2

代目、3代目と関わりを持って経営に参画しました。雑駁な話でしたが以上で卓話を終わります。